

IT 技術者が多く、60.8%を占める（「勤めていたい」（39.1%）と「長く勤めていたい」（21.7%）の合計）。中国出身の IT 技術者は、今の会社で継続的に働きたいと希望する割合が低下するようである（「勤めていたい」（21.5%）と「長く勤めていたい」の合計は 31.2%）。

次に、表 8-2 から、雇用形態別に、外国人 IT 技術者が今の会社で継続的に働きたいのかどうかを見よう。正社員の場合は、今の会社で継続的に働きたいと考える技術者が 46.7%を占め（「勤めていたい」（28.9%）と「長く勤めていたい」（17.8%）との合計）、転職を希望する技術者は 15.2%を占める（「すぐに転職したい」（5.3%）と「転職したい」（9.9%）の合計）。一方、有期雇用の契約社員の場合、今の会社で継続的に働きたいと考える技術者は 20.5%を占め（「勤めていたい」（11.4%）と「長く勤めていたい」（9.1%）の合計）、他方で、34.1%が転職を考えている（「すぐに転職したい」（13.6%）と「転職したい」（20.5%）の合計）。ここから、正社員で雇用されている外国人 IT 技術者は、今の会社で継続的に働くことを希望する傾向が見られ、一方で、有期雇用契約の IT 技術者は、転職を希望する傾向が見られることが分かる。

2. 今後の生活

表 8-3 今後の生活（国籍別）

		今後の生活					合計
		日本に永住する予定	いずれ出身国に戻る予定	いずれ日本・出身国以外の国に行く予定	わからない	無回答	
国	中国	11.8%	60.4%	9.7%	17.4%	0.7%	100.0%(144)
	インド	26.1%	60.9%	4.3%	8.7%		100.0%(23)
	韓国	15.0%	65.0%		20.0%		100.0%(20)
	その他	6.3%	25.0%	18.8%	50.0%		100.0%(16)
合計		13.3%	58.1%	8.9%	19.2%	0.5%	100.0%(203)

表 8-3 から、外国人 IT 技術者の今後の予定を見ると、「いずれ出身国に戻る予定」である外国人 IT 技術者が 58.1%を占め、一方で、「日本に永住する予定」の外国人 IT 技術者が 13.3%、「いずれ日本・出身国以外の国に行く予定」が 8.9%を占めるに過ぎない。ここから、多くの外国人 IT 技術者は、日本に定着せず、「いずれ出身国に戻る予定」である労働力であることが分かる。

次に、国籍別に今後の予定を見ると、国籍を問わず、過半数以上の IT 技術者がいずれ出身国へ帰国することを予定しているが、そのなかでも韓国出身の IT 技術者は、出身国への帰国に対する意識がやや高いことが分かる（「韓国」65.0%、「中国」60.4%、「インド」60.9%）。一方、インド出身の IT 技術者は、日本に永住することを予定している傾向がやや見られる（「インド」26.1%、「中国」11.8%、「韓国」15.0%）。

3. まとめ

外国人 IT 技術者は、今の会社で継続的に働くことを希望する傾向が見られ、転職を希望する割合は低いようである。雇用形態別に、今後の職場の希望を見ると、有期雇用の契約社員と比べて、正社員の場合のほうが、今の会社で働き続けたいと希望する割合は高いようである。

また、出身国を問わず、いずれ、出身国に戻る予定の外国人 IT 技術者は多い。ただし、インド出身の IT 技術者は、日本に永住する予定の割合がやや高くなる。

ここから、外国人 IT 技術者はいずれ帰国する予定の労働力ではあるが、かれらを積極的に活用するには、かれらの雇用を保障することが求められているといえる。

(郭 智雄)

第 9 章 自由記入欄の分析

「外国人 IT 技術者の就労と生活に関する調査」では、調査票の最後に自由記入欄を設けている。これは、「日本での仕事や生活に関して、あなたのご経験やご意見を自由に書いてください。」としたもので、外国人ソフトウェア技術者に日本での仕事や生活についての意見をたずねたものである。この自由記入欄には 116 人が意見を寄せているので、有効票の 57.1% に記入があったことになる（有効票 203）。

ここでは設問調査ではカバーできない内容を中心に、外国人ソフトウェア技術者の経験や意見を紹介、分析する。これによって、前章までの設問式調査の分析結果を補完したい。

自由記入欄に記載された外国人ソフトウェア技術者の意見は多岐にわたっているが、ここでは(1)残業・通勤時間、(2)仕事内容とキャリア、(3)職場でのコミュニケーション、(4)処遇・教育訓練、(5)日本の制度・慣習に関する情報、(6)日本の物価水準、(7)ビザの取得・在留資格の延長手続き、(8)選挙権・社会保障制度、(9)その他、の 9 項目に分けて外国人ソフトウェア技術者の生の意見を見ていくことにする。なお、自由記入欄への記入は日本語のほか、英語、中国語でも行われているが、この章で引用した内容はすべて日本語に訳したものである。

1. 残業・通勤時間

第 7 章にも、「労働時間」の満足度に関する設問調査の分析があったが、自由記入欄の記述を見ると、日本企業の習慣的な残業に関する不満を訴える外国人ソフトウェア技術者が多い。具体的には、「日本人がなぜ残業を習慣とするのか理解できない。仕事が終わったら帰宅して何が悪いのか？」（性別：男性、年齢：27 歳、国籍：インド、ビザ：技術、以下同様。）とか、「習慣的な残業は時間と富に対する浪費だと思います。残業は一番慣れないところです。」（男性、25 歳、中国、技術）という意見がある。また、習慣的な残業のせいで仕事以外の活動に時間をとれないということの問題視しているという意見もあった。たとえば、以下の事例は残業時間の長さが外国人ソフトウェア技術者の日本語習得の障害になっていることを示唆している。

日本で半年ぐらい仕事をしましたが、残業がとて多く、平均すると一ヶ月 60 時間ぐらいです。仕事が忙しいので交流時間が少なく、日本語の勉強時間も少ないです。（男性、年齢不明、中国、技術）

同様に、以下の事例は、まだ日本語能力が十分でない外国人ソフトウェア技術者が、残業に追われて日本語がなかなか身につかず、日本人との交流もなかなかできずにいるという悪循環に陥っている状況を述べている。そしてこの回答者は、このような悪循環を解決するために、日本政府が日本人と外国人の交流を増やすことを期待している。

技術の仕事は残業時間が長いので、人との交流時間が少ないです。また自分は外国人で日本語レベルも低いので、日本人との交流機会がやはり少ないです。日本の政府機関が日本人と外国人の文化交流活動を増やし、相互理解を拡大させることを期待します。（男性、24 歳、中国、技術）

そのほかにも、「仕事が忙しくて、プライベートの時間がない。運動する時間もない。」（男性、27 歳、中国、技術）、「個人の場合は困らないとしても家族（特に子供）がいる場合、日本の生活はかなり厳しいです。つまり家族と過ごす時間は非常に少ない。自分の仕事が早く終わって帰りたいと考えても周りの日本人はほとんど帰らない。」（男性、35 歳、インド、永住）といった記述に見られるように、残業時間が長いために個人の時間や家族との時間がとれないことに対する不満もある。

通勤時間に関しては、同じく第 7 章に「通勤事情」の満足度に関する分析があった。自由記入欄の記述では、「交通が便利ですが、通勤時間が長すぎる。」（男性、25 歳、中国、技術）というように、交通網が整備されていることには満足しているが、通勤時間が長いという点では不満を覚えているという意

見があった。

2. 仕事内容とキャリア

第7章では「与えられた仕事の内容」、「昇進・昇格の機会」についての満足度を分析しているが、自由記入欄に寄せられた意見の中にも、①現在の仕事内容に関するもの、②将来のキャリアに関するもの、③日本人の仕事への態度に関するもの、があった。①現在の仕事内容に関するものとしては、以下の例が示すように、ほかの職務にもつきたいにもかかわらず、長期間にわたって下流工程の同じ仕事をしている状況を訴える意見があった。

何年かけてもコーディング以外の仕事をやらせてもらうチャンスがなかなかありません。(男性、26歳、中国、技術)

同様に、単調な仕事をずっとやっていることに対する不満として、「仕事の内容は繰り返して、つまらないのが多く、チャレンジングなものが少ない。」(男性、24歳、中国、技術)という意見があった。さらには、「日本の会社は外国人を採用する限り、平等に競争、待遇すべきである。会社はただ外国人を採用するだけで、重要なポストは外国人には任せない。彼らは採用は出来るが、活用は出来ない。」(女性、32歳、中国、人文知識・国際業務)というように、日本人ソフトウェア技術者と同等の職務につかせてもらえないという不満もある。

②将来のキャリアに関するものとしては、「日本の会社では外国人のキャリアの成長展望は大きくない。私の経験から言うと、多くの外国人は技術の仕事をしている。管理の担当は少ない。」(男性、41歳、中国、その他(ビジネス))というように、外国人ソフトウェア技術者には管理職へのキャリアパスが開かれていないという指摘があった。また、以下の例のように、キャリアを自分で選択できず会社の指示に従わなければならないことに不安を感じているという意見もあった。

具体的には仕事、生活で悩むこともあります。例えば、キャリアの方向が掴みにくい、具体的な仕事の選択のときは自分の意思で決められず、会社の指示に従うしかないなど。(女性、24歳、中国、技術)

さらに、「言葉に問題があるので、仕事で上司や同僚とのコミュニケーションが少ない。それはキャリアの面にも影響する。」(男性、27歳、中国、技術)という意見に見られるように、外国人ということで言語の面でハンディキャップを負っているため、日本でのキャリア形成に関して不利さを感じている外国人ソフトウェア技術者もいる。

③日本人の仕事への態度に関するものとしては、「日本人が仕事に真面目なところは学ぶべきだと思います。」(女性、29歳、中国、技術)、「日本の顧客意識はすばらしいと思う。」(男性、29歳、中国、技術)、「日本人には学ぶべき点が多いです、例えば仕事態度、団体精神など。」(男性、25歳、中国、技術)というように日本人の仕事に対する勤勉さ、日本企業の顧客意識の高さを肯定的に捉える記述があった。

3. 職場でのコミュニケーション

第7章でも「上司や同僚とのコミュニケーション」の満足度を分析しているが、自由解答欄の記述には、職場での日本人とのコミュニケーションについての不満がより細かく表れている。その内容は、①日本人および日本語表現の曖昧さに対する戸惑い、②職場での人間関係の不満、の2つに大別される。

まず、①日本人および日本語表現の曖昧さに対する不満に関しては、以下の2例のように、日本人が仕事の上で明確な指示をしない、明確な指示を仰がない、日本人の同僚が問題点を明確に指摘してくれないという戸惑い、不満がある。

日々の作業を進め、結果的に「イメージが違うな」と誰かが上司に言われているような時は、「なぜはっきりきかないの?」とつくづく思う。(男性、29歳、その他(台湾)、永住)

日本は中国と慣習が違います。仕事で何か問題があれば直接指摘して欲しいですが、日本人の同僚は本当のことを言わない。日本人の同僚がもう少し中国人の仕事の進め方を理解することを望みます。(男性、22歳、中国、技術)

また以下の例は、外国人ソフトウェア技術者が日本語表現自体の曖昧さに戸惑っている例である。まわりくどい言い方のために、言われている意味が理解できなくなってしまうという不満が表れている。

仕事上では、はじめは日本人の曖昧な表現が(例えば、「いいですか書いたほうが良いと思います」とか)分かりにくかったです。あるときは同じことを何回も違う表現で言われ、訳分からなくなるときもありました。(女性、25歳、中国、技術)

②職場での人間関係への不満に関しては、職場の雰囲気悪さを指摘する意見がある。たとえば、以下の例では、職場の日本人が教条主義的で柔軟性に欠けているため、職場の雰囲気が悪いということ述べている。

仕事の面で、日本人はとても真面目で、責任感が強く、会社とお客様のためにものごとを考えると自覚が強い。しかし、日本人は比較的に教条主義で、柔軟性に欠けている。仕事場の雰囲気が良くない。(男性、35歳、中国、企業内転勤)

それから、「周囲の人が仕事に夢中で私とあまり話さないです。」(女性、23歳、中国、技術)というように、仕事に夢中になっている日本人とのコミュニケーションの難しさを指摘する意見もあった。また、「日本人の、おたく達とは本当に話していない。でも多くの日本の方は優しく、付き合いやすいタイプです。」(男性、24歳、中国、技術)というように、ある一部の日本人ソフトウェア技術者と付き合いにくいという意見もあった。

そのほか、「職場の雰囲気に活気がないとも感じています。上司と部下の関係は厳しすぎて、いまだに慣れられない状態で、これからも慣れられないままで日本でのキャリアを終えるか、転職するかもしれません。」(男性、26歳、中国、人文知識・国際業務)とか、「日本の生活習慣になれるのは中国人としては難しいところがあります。例えば(中略)職場でのルール(部下は上司に絶対反対してはいけない)などです。」(男性、32歳、中国、技術)というように、日本企業は上司との関係が厳しすぎるという戸惑いの声もあった。なお、極端なケースでは、「上司との交流は少ないです。もちろん民族の間の壁が原因です。(いじめられることもある)。(男性、26歳、中国、技術)」という意見もある。ただし逆に、「今の自分は非常に恵まれた環境にいる。業界全体の不況で多少苦勞するところはあるが、上司も同僚も最善を尽くしているので、自分としては文句がありません。」(男性、31歳、中国、研究)というように、日本人の同僚・上司によくしてもらっているという意見もあった。

4. 処遇・教育訓練

日本企業での処遇に不満を持つ外国人ソフトウェア技術者がいる。たとえば、「典型的な日本企業に勤めていて、会社の制度に関しては、不合理な部分が多いことを感じています。特に能力主義ではなく、管理方法は従業員にモチベーションを持たせにくい。」(男性、26歳、中国、人文知識・国際業務)とか、「昔からの年功序列がぜんぜん変わっていません。これからも変わらないと思っています。」(男性、24歳、中国、技術)というように、勤務先の日本企業が能力を重視した人事制度・処遇になっていないということに不満を訴える意見がある。

また、第7章でも「能力開発機会」の満足度を分析しているが、自由記入欄の記述には日本企業が提供する教育訓練に対する不満がいくつかあった。以下の例は、日本企業では外国人に対する教育訓練が充実していないと指摘している。

日本では外国人に対して良質で、費用対効果の大きな教育システムが存在しないようだ。(男性、39歳、インド、技術)

また、全体的に日本企業は教育訓練機会が充実していないという指摘として「日本企業の従業員に対する教育訓練体制は欧米企業より充実していない。」(男性、27歳、中国、技術)という記述もあった。

5. 日本での生活・慣習に関する情報

外国人ソフトウェア技術者が日本で就労・生活し、その後も日本に滞在しようとした場合、日本の文化・慣習を理解することが不可欠である。以下は、外国人ソフトウェア技術者が日本に適応し、快適な就労・生活ができている例である。

仕事において、日本はもっとも環境が整っている国であると思われます。(他の国で仕事をしていないからかもしれませんが)日本の習慣、文化をある程度理解できたこともあり楽しく仕事できています。生活面においても特に不便なことなく、理想な生活環境と思われます。(男性、39歳、中国、永住)

ただし、もう一方で外国人ソフトウェア技術者が日本に来る際に、日本の情報を十分に得られていないという問題がある。以下の例は、日本の税制や給与水準、健康保険、教育など、日本での生活に必要な情報が十分得られていない外国人ソフトウェア技術者がいることを示唆している。

日本の税制度と、家族を日本に連れてくるとしたときにどのようなサービス・施設・教育が受けられるかについての情報が必要と思う。個人的には給与水準、健康保険、教育に関することについてあまり情報をもらっていないと感じる。(男性、26歳、インド、人文知識・国際業務)

そのほか、日本の慣習を積極的に知りたいという外国人ソフトウェア技術者からは、「日本に住みながらも日本の社会、慣習などを知る機会があまりない。周りの同僚の言動から少しずつ理解するしかない。日本の社会、慣習を紹介したパンフレットがあれば、少しでも助かると思います。」(男性、年齢不明、中国、企業内転勤)という指摘、および提案もあった。

6. 日本の物価水準

第7章で「給与・ボーナス」への満足度を分析しているが、それと密接な関係にあるのが物価水準である。自由解答欄の記述には、日本の物価水準の高さに不満を感じる意見があった。たとえば、「生活面では便利ですが、衣食住が高いです。」(女性、29歳、中国、技術)という意見が典型的である。そのほかにも、「西側諸国で当然と思われていることが日本では高い(車、娯楽など)」(男性、33歳、インド、技術)とか、「日本では医療機関の利用にかかる費用が高すぎる。」(男性、29歳、インド、技術)といった意見も見られる。

また、以下の例では子どもの教育費(インターナショナル・スクール)が、日本の場合は諸外国に比べて高いということを指摘し、日本政府の対応を求めている。

我々外国人で日本に住んでいても、将来のことを考えて自分の子供を英語で教育が受けられるインターナショナル・スクールに行かせる必要があります。この場合学費は通常の日本の学校より3倍くらい

高い。他の国では学費は非常に安い、政府もきちんと監視している。この件については我々外国人は非常に困っていて日本政府からの対応を期待しております。社員に対して会社が学費を負担する場合は問題ありませんが、個人で負担している場合は、給料がいくら高くても子供2人いるだけで日本生活はかなり厳しいです。」(男性、35歳、インド、永住)

7. ビザの取得・在留資格の延長手続き

外国人ソフトウェア技術者には、日本に滞在するビザを取得する際や、在留資格を延長する際の手続き・制限に対しての不満が根強く存在している。たとえば、以下の例が典型的であるが、技術系の就労ビザを取得する際の制限が厳しすぎるといった不満が述べられているほか、家族が来日するためのビザ取得が難しく、親の面倒をみるため、もしくは子育てのために日本を離れるソフトウェア技術者が多くいるということ指摘している。

ビザの取得は若干緩和されてきたと思いますが、まだまださまざまな制限がある。技術系の就労ビザ取得は、(中国出身の人だけ?) 専門学校卒なら、10年以上の経験がなければいけない等、学歴によってさまざまな制限があります。高卒以上の学力があれば、IT業界のスキルはそもそも学歴とは関係ない。10年の経験は厳しすぎ。それでは優秀な人材を日本に呼んでくることができない。水商売で働いている東南アジアの女性は経験なしでも簡単にビザ取得ができるのに! 残念!!!! 需要と供給のバランスがあるといっても、今の日本社会は優秀な技術のほうがもっと必要だと思う。技術者の家庭などを考慮し、在留資格の条件を緩和すべき!

親が歳をとっても来日するためのビザ取得が難しい。(帰化して、日本人になってもだめ) 親の面倒を見るために優秀な人材が本国に戻るか、または第三国に行くことがかなり多い! 子供が生まれたら、通常親に赤ちゃんの面倒をみてもらうが、3ヶ月のビザしか取れない、それで帰国せざるを得ない人も多い。技術者不足、少子化の日本にとっていい法律ではないと思う。このままでは、本当の国際社会になれないと思う。(男性、33歳、中国、永住)

また次の例は、外国人ソフトウェア技術者が日本でうまく仕事をやっていくには、時間をかけて日本人ソフトウェア技術者の考え方を理解することが必要だという観点から、技術ビザの有効期間を延長することを提案している。

日本の技術者は中国の技術者と考え方が違うため、意見が合わない時が多いです。日本に長く勤めた方は(例えば5年以上) 比較的このような違いを理解し、仕事も順調になるようです。技術ビザを今の3年から5年に延長することを提案します。そうすれば外国人技術者が日本の会社、日本の技術者、日本の技術を理解できるようになると思います。(男性、36歳、中国、技術)

そのほかにも、「外国人の留学生とか就職した人に対しての入管手続や、在留の延長手続などやや面倒な気がします。」(女性、25歳、中国、人文知識・国際業務)、「日本国は、外国人に対して厳しすぎる。(例: 永住許可を持っているのに3年ごとに「再入国」の手続をしないといけないとか) もうちょっとグローバル的な社会環境を作ってほしい。」(男性、42歳、中国、永住)、「日本人と同じように税金や年金などを払っているのに、権利としては、不平等の感じがしています。例えば、親族のビザですが、なぜビザの有効期限が一年だけだと、保証人を探さなければいけないのですか?」(女性、23歳、中国、技術) というように、在留の延長手続などが面倒であるとか、厳しすぎるといった意見が寄せられた。

8. 選挙権・社会保障制度

外国人ソフトウェア技術者のなかにも、「日本人と同じように税金・年金保険料等を払っていますが、なぜ選挙権が得られないかが疑問に思っています。」(男性、32歳、タイ、技術)というように、現行の制度では日本での選挙権が得られないことに対する不満の声がある。また、社会保障制度に関しては、「日本の年金は他の先進国に比べてそれほど魅力のあるものではない。」(男性、52歳、その他(米国)、永住)という指摘もある。また、個別事情としては「医療保険などの保険に加入させてもらっていない(日本の会社が入れてくれなかった)ので、身の保障が出来ていない感じがします。」(男性、25歳、中国、企業内転勤)というように、日本企業が外国人ソフトウェア技術者を医療保険に加入させていないケースがあるという指摘もあった。

9. その他

日本人とのコミュニケーションに関連する記述として、「周りの日本人は親切、特に中国語に興味がある方とはお互い教えあい、楽しいです。」(男性、24歳、中国、技術)というように、周りの日本人と良い関係を築いているという意見がある一方、「日本人は外国人に礼儀正しいが、友達になるのは難しい。」(男性、25歳、中国、技術)というように、日本人一般の傾向として、表面上の付き合いは良いが仲良くなるのは難しいと感じているという意見もあった。

また、日本での生活に関する意見もいくつかあった。まず、「日本の銀行、郵便局、病院等の営業時間はもうちょっと長いほうが良いと思います。」(女性、25歳、中国、人文知識・国際業務)とか、「日本の公共機関、銀行などは休日に休むことが不便。」(男性、26歳、中国、技術)というように、公共機関、銀行、郵便局、病院等の営業時間が短いこと、休日に営業していないことに対する不満があった。また、日本の医療環境に関する意見として、「大きな問題が医療に関するもの。英語を話す医者を見つけるのが難しい。」(男性、31歳、インド人、技術)というように、病気になったときに英語の通じる病院を探すことが困難であるとの指摘があった。一方、「スーパーや駅、飲食店(松屋など)には自動販売機があり、日本語をそれほど使わなくて済むのが便利です。」(男性、年齢不明、中国、企業内転勤)というように、自動販売機が充実しているので言語の違いは日常生活では問題にならないという意見もあった。

日本の治安に関しては、「便利、治安が良い。」(男性、24歳、中国、技術)とか、「日本に来てから長くはないが、交通、生活、買い物がとても便利だと思いました。治安も良いと思います。日本政府の外国人に対する優遇に感謝します。」(男性、23歳、中国、技術)という記述がある一方で、日本に長期滞在している外国人ソフトウェア技術者からは「10年前と比べて現在日本の治安は悪くなっていますが、政府は真剣に対策を考えているか疑問。」(男性、32歳、タイ、技術)とする意見があった。

そのほか、娯楽に関する意見として、「インドについてのTV番組がないので、家族の日本での滞在は寂しいものだ。」(男性、39歳、インド、技術)というように、テレビ番組によって、母国の情報を知ったり母国を懐かしんだりということができないということを訴える意見もある。さらには、「大きなオートバイの音が非常にいらいらする。警察は外国人をよく職務質問するがそれも不快。」(男性、26歳、インド、技術)という記述に見られるように、日本での騒音に悩んでいるということや、警察にたびたび職務質問されることに不満を訴える外国人ソフトウェア技術者もいる。

なお、具体的なことはわからないが、「女性差別および外国人差別をまだ感じます。」(女性、28歳、その他(台湾)、人文知識・国際業務)という記述もあった。

日本滞在中にホームシックにかかる外国人ソフトウェア技術者もいる。たとえば、「そろそろ日本に来て2年になります。仕事や生活にはだいたいもうなれました。友達がありますが、家族が日本にいないから、時々淋しいことがあります(特に病気になるとき)。」(女性、24歳、中国、技術)という意見がある。また、「一言で言うと日本は生活しやすいです。清潔で、交通が便利です。しかし、食生活には慣れません。」(女性、25歳、中国、技術)というように、日本の食生活に慣れることができないという記述もあった。

最後に、日本には好印象をもっているが、いずれは母国に帰りたいという外国人ソフトウェア技術者が多かった。以下の例が典型的である。

日本は先進国で社会環境にしても、人間環境にしても中国より優れていると思います。日本は各方面での制度が完備されている国です。日本語を話すことができれば、日本は中国より住みやすいです。本音かどうかは別として、多くの日本人は外国人に友好的です。仕事の中でも、生活中でも、いつも日本は礼儀を重んじる国であることを感じます。対照的に中国はこの面が欠けています。日本で仕事すると昇進の機会は少なくても、貧富の差が中国のように目立たないので、生活は快適です。しかし、日本は故郷ではない。日本の社会がいくら良くても、日本にいくら長く住んでいても、結局は中国に帰りたいと思います。(男性、24歳、中国、技術)

10. まとめ

自由記入欄には日本での就労・生活に満足しているという意見が幾つもあったが、不満意見も多く見られた。取り上げた内容は、(1)残業・通勤時間、(2)仕事内容とキャリア、(3)職場でのコミュニケーション、(4)処遇・教育訓練、(5)日本の制度・慣習に関する情報、(6)日本の物価水準、(7)ビザの取得・在留資格の延長手続き、(8)選挙権・社会保障制度、(9)その他、の9項目であり、以下ではそれぞれの項目について簡単にまとめを記載した。

(1)外国人ソフトウェア技術者から見ると、日本企業で行われている習慣的な残業に対して理解できない、無駄であるとの意見があった。また、残業時間と通勤時間の長さに対する不満があり、それが日本語の習得の障害となっているケースや、プライベートの時間を取れないという生活面での不満につながっていることが指摘された。

(2)コーディングなどの下流工程の職務や単純作業を長期間続けていることへの不満があった。また、外国人ソフトウェア技術者には管理職へのキャリアパスが開かれていない、自分でキャリアを選択できないということに対する不満・不安を述べる意見があった。さらに、日本でのキャリア形成は言語面でのハンディキャップがあるため不利だと感じている外国人ソフトウェア技術者もいた。また一方で、日本人の仕事に対する勤勉さ、日本企業の顧客意識の高さを肯定的に捉える意見があった。

(3)日本人の上司や同僚から、仕事上の指示を明確にもらえない、仕事上の問題点を明確に指摘してくれない、という不満・戸惑いを訴える意見があった。また、まわりくどい日本語の表現は意味がとりにくいという指摘もあった。さらに、職場の日本人が教条主義的だったり、仕事に熱中しすぎているような状況だったりするために職場の雰囲気が悪いという指摘があったほか、上司と部下の関係が厳しすぎるという戸惑いの声もあった。

(4)能力を重視した人事制度になっていないことについての不満の声があった。また、日本のソフトウェア企業の教育訓練は、欧米企業と比較して全体的に充実していない、外国人に対して費用対効果の大きい教育訓練システムがないという指摘があった。

(5)外国人ソフトウェア技術者が日本で生活するうえで必要な情報が十分にいきわたっていないということが示唆された。また、日本に住んでいても日本の社会や慣習を知る機会がないとの指摘があった。

(6)日本の物価水準が高いという不満の声があった。また、日本で子どもをインターナショナル・スクールに通わせるときにかかる費用が諸外国に比べて極めて高いという指摘があった。

(7)滞日ビザの取得が困難、在留資格延長の手続きが面倒である、という不満を述べている意見があった。また、家族が滞日ビザを取得することが困難なことから、日本を離れる外国人ソフトウェア技術者もいることが指摘された。そのほか、日本人ソフトウェア技術者のことを理解するには時間がかかるので、技術ビザの有効期間を延ばすべきだという提案があった。

(8)税金・社会保険料を支払っているのに日本での選挙権がないことに対する不満の声があった。また、日本の社会保障制度が魅力的でないという指摘もあった。個別事例としては、日本のソフトウェア企業が外国人ソフトウェア技術者を医療保険に加入させていないことがあるとの指摘があった。

(9)日本人と楽しく付き合えているという意見があった一方、日本人とは表面的な付き合いは良いが

親密になるのが難しいとする意見もあった。日本の公共機関、銀行、郵便局、病院等の営業時間が短いことや休日に営業していないことに対する不満の声があった。英語が通じる医療機関を探すのが困難であるとの指摘があったが、一方で日常生活では自動販売機が充実しているので日本語がわからなくてもそれほど困らないという意見もあった。日本の治安は良いという評価する外国人ソフトウェア技術者がいる一方、以前と比べて日本の治安は悪化しているとした外国人ソフトウェア技術者もいた。母国（インド）のテレビ番組が少ないとの不満があった。オートバイなどの騒音やよく職務質問を受けることに対する不満の声があった。日本では女性差別・外国人差別をまだ感じるという意見があった。

（南雲智映）

執筆担当者（執筆順）

白木 三秀	早稲田大学政治経済学術院教授	(序章)
尹 春華	早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程	(第1章、第4章)
熊迫 眞一	早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程	(第2章、第3章)
梅澤 隆	国土舘大学政経学部教授	(第5章)
南雲 智映	慶應義塾大学産業研究所共同研究員	(第6章、第9章)
太田 仁志	早稲田大学教育学部講師	(第7章)
郭 智雄	立教大学経済研究所研究員	(第8章)

(参考資料)

調査票

1. 日本語版

--	--	--	--

外国人 I T 技術者の就労と生活に関する調査

2004年9月

〈ご記入にあたってのお願い〉

1. この調査は、2004年度厚生労働科学研究費補助金の調査研究の一部を早稲田大学現代政治経済研究所が受託し、実施しています。日本で働く外国人 I T 技術者を対象としています。ご記入は調査対象者ご自身にお願いいたします。
2. ご回答は質問に応じ、選択肢に○印をつけるか、数字を該当欄にご記入ください。なお、数字に関する質問では正確な回答が困難な場合にも、概数または推定の数値で結構ですのでぜひご記入ください。
3. ご記入の終わった調査票は、返信用の封筒に入れ、ご返送ください。
4. なお、この調査票は、早稲田大学現代政治経済研究所で統計的に処理されますので、あなた個人に関する情報が外部に出ることは絶対にありません。
5. 調査に関するお問い合わせは以下にお願い申し上げます。

〒169-8050

東京都新宿区西早稲田 1-6-1

早稲田大学政治経済学部 白木三秀研究室

TEL 03-5286-9820 e-mail mshiraki@waseda.jp

あなた個人についてうかがいます。

問1 あなたの性別は何ですか。

1. 男性 2. 女性

問2 あなたの年齢をお書きください。 満 歳

問3 あなたの国籍はどこですか。

1. 中国 2. インド 3. 韓国 4. その他 (国名:)

問4 あなたが住んでいる都道府県名をお書きください。 都・道・府・県

問5 あなたは結婚していますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. 結婚している (配偶者と同居している)] → (付問5-1へ)
2. 結婚している (配偶者と別居している)] → (付問5-1へ)
3. 結婚していない (離婚・死別) → (付問5-3へ)
4. 結婚していない (未婚) → (問6へ)

【付問 5-1】配偶者の国籍を教えてください。

1. あなたと同じ国籍 2. 日本 3. その他 (国名:)

【付問 5-2】配偶者の年齢を教えてください。 満 歳

【付問 5-3】お子さんはいますか。いない場合は0と記入してください。

1. いる → 人 → (付問5-4へ)
2. いない → (問6へ)

【付問 5-4】お子さんの年齢、国籍、あなたとの同別居の有無を教えてください。国籍はあてはまるものに全てに○を付けてください。

	年 齢	国 籍	同別居
第一子	満 () 歳	1. あなたと同じ 2. 日本 3. その他 (国名:)	1. あなたと同居 2. あなたと別居
第二子	満 () 歳	1. あなたと同じ 2. 日本 3. その他 (国名:)	1. あなたと同居 2. あなたと別居
お子さんが3人以上の場合のみ、下欄に (末子について) 記入してください			
末子	満 () 歳	1. あなたと同じ 2. 日本 3. その他 (国名:)	1. あなたと同居 2. あなたと別居

問6 あなたの学歴についてうかがいます。

(1) あなたの最終学歴について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. 中学・高校 2. 短期大学・専門学校
3. 大学 4. 大学院修士課程 5. 大学院博士課程

(2) そのとき（最終学歴時）のあなたの専門分野について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. コンピュータ関連の理工系 2. コンピュータ関連以外の理工系
3. 文系 4. その他（具体的に： ）

問7 あなたの日本での在留資格および滞在期間などについてうかがいます。（ただし年数について6ヶ月以上は切り上げ、6ヶ月未満は切り捨ててください。）

(1) 現在の在留資格は次のうちのどれですか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. 技術 2. 研究 3. 投資・経営 4. 人文知識・国際業務
5. 企業内転勤 6. 永住 7. その他（具体的に： ）

(2) 現在の日本滞在中、来日したのはいつですか。 西暦 年

(3) これまでに日本には通算で何年滞在していますか。 通算 年

(4) そのうち、日本で通算で何年働いていますか。 通算 年

問8 あなたは IT に関連する日本で相互認証されている下記の表にあるような諸外国の公的な資格、あるいは日本の公的な資格を持っていますか。

1. 持っている → (付問8-1へ)
2. 持っていない → (問9へ)

【付問8-1】あなたが持っている資格全てに○を付けてください。

中国の資格	1. プログラマ 2. ソフトウェア・エンジニア 3. システム・アナリスト
インドの資格	4. DOEACC レベル
韓国の資格	5. 情報機器運用技能士 6. 情報処理産業技師 7. 情報処理技師
日本の資格	8. 初級システム・アドミニストレイター 9. 基本情報技術者 10. ソフトウェア開発技術者 11. アプリケーション・エンジニア 12. プロジェクト・マネージャー 13. システム・アナリスト
その他の国の資格 (国名：)	14. その他の国の資格 (資格を具体的に：)

問 14 日本の公的年金制度について、何かご意見はありますか。あてはまるもの全てに○を付けてください。

1. 保険料が高すぎる
2. 途中で脱退した場合の一時金が少な過ぎる
3. 年金をもらえる資格が発生するまでの加入期間が長すぎる
4. 公的年金制度の仕組みがわからない
5. その他（具体的に： _____）

あなたを雇用している会社や仕事についてうかがいます。

問 15 あなたを雇用している会社についてうかがいます。自営の場合はあなたが経営する会社についてお答えください。

(1)会社全体（本社、支店、営業所などを合わせた）の従業員数は何人ですか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

- | | | |
|-------------|-----------------|-------------|
| 1. 9人以下 | 2. 10-29人 | 3. 30-49人 |
| 4. 50-99人 | 5. 100-299人 | 6. 300-499人 |
| 7. 500-999人 | 8. 1,000-2,999人 | 9. 3,000人以上 |

(2)あなたを雇用している会社は、もともとどこの国で設立されましたか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. あなたの出身国 2. 日本 3. その他（具体的に： _____）

(3)会社の主な（売上げが最も多い）事業は何ですか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. ソフトウェア開発
2. ソフトウェア開発以外の情報サービス関連業務
3. 通信業
4. コンピュータ関連のハードウェアの製造・販売
5. その他（具体的に： _____）

(4)現在の会社でのあなたの勤続年数は何年ですか。（ただし6ヶ月以上は切り上げ、6ヶ月未満は切り捨ててください。）

現在の会社での勤続年数 年

(5)あなたが入社した場所はどこですか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. 出身国 2. 日本 3. その他（具体的に： _____）

問20 日本国内で転職したことがありますか。

1. ある → 回
2. ない

問21 あなたの職位や職名 (Job Title) は次のどれにあたりますか。 もっとも近いものを1つ選んで○をつけてください。

1. 初中級プログラマ
2. 上級プログラマ
3. システム・エンジニア
4. システム開発・ソフトウェア開発のグループ・リーダー
5. ソフトウェア技術営業 (セールス・エンジニア)
6. オペレーター・システム管理運用者
7. 部門長
8. 経営者 (自営も含む)
9. その他 (具体的に: _____)

問22 現在のあなたの仕事の内容についてうかがいます。

(1) 現在のあなたの仕事内容にあてはまるものを全てに○をつけてください。

1. 全般的な計画管理業務
2. ソフトウェア・プロダクトの企画
3. プロジェクト・チーム (チームとは、ソフト開発に立ち会う最小の組織単位) の管理
4. ソフトウェアの概要設計
5. ソフトウェアの詳細設計
6. プログラミングと単体テスト
7. 統合テストとシステム・テスト
8. ソフトウェアの保守
9. その他 (具体的に: _____)

(2) またそのなかでもっとも主要な (投入時間がもっとも長い) 仕事を1つ選んで番号を記入してください。

主要な仕事

問23 あなたのソフトウェア開発のプロジェクト・チームについてうかがいます。

(1) あなたが直接、所属するプロジェクト・チームは何人 (あなたを含む) で構成されていますか。

合計 人 → そのうち、あなたと同じ国籍 人
日本国籍 人
それ以外の国籍 人

(2)あなたのプロジェクト・チームリーダーの国籍は何ですか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. あなたと同じ国籍
2. 日本国籍
3. それ以外の国籍（具体的に： _____)

あなたの仕事に関する考えについてうかがいます。

問 24 あなた自身は、個人的な事情がないならば、いつまでも年齢に関係なくソフトウェア技術者を続けられると思いますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. いつまでも続けられる → (問 25 へ)
2. いつまでも続けられない →

--	--

 歳まで続けられる → (付問 24-1 へ)
3. わからない → (問 25 へ)

【付問 24-1】どのような問題により、その年齢までしか活躍できないと考えますか。あてはまるもの全てに○を付けてください。

1. 体力的な問題
2. 集中力等の精神的な問題
3. 創造性等の発想力の問題
4. 新しいテーマ・プロジェクトに対するチャレンジ精神の問題
5. 急速な技術変化についていけない
6. プロジェクト管理業務による多忙
7. ソフトウェア開発以外の仕事（会議、他部門との打ち合わせ、顧客の接待、予算書類の作成など）による多忙
8. その他（具体的に： _____)

問 25 あなたが最も帰属意識・一体感を感じているものは何ですか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. 会社
2. 所属部門
3. 直属上司
4. 職場の先輩や同僚
5. あなたが（日常の仕事で）所属するプロジェクト・チーム
6. ソフトウェア技術者という職種